

大阪商業大学所蔵新出史料の翻刻

土佐 雅彦
加納 亜由子

「鑪鍛冶屋諸当り帳」

「播州樫ノ木山鉄山鍛冶屋新普請仕法立目録」

翻刻の経緯

ひょうご歴史研究室たら製鉄研究班では、大阪商業大学商業史博物館所蔵の「三日月藩文書」から「元文中鉄山仕法書写」を翻刻し、紀要九号で紹介した。紙面の都合上、残る二冊の関係文書を紹介できなかったため、兵庫県立歴史博物館のホームページ上からお届けすることとなった。二冊の主な内容を表1に示すが、番号は翻刻文中に追加したものである。以下、紀要九号から二冊の概要について引用する。

天保三年（一八三二）の日付をもつ「鑪鍛冶屋諸当り帳」は四丁にすぎず、鑪一代と大鍛冶一日の損益見積もりをしている。一代の操業を「四日

表1 二冊の主な内容

番号	見出し
鑪鍛冶屋諸当り帳	
1	鑪当り
2	鍛冶屋当り
3	鑪打立
播州樫ノ木山鉄山鍛冶屋新普請仕法立目録	
1	新鑪打立財木并二間敷荒積り之事
2	新鍛冶屋打立荒積之事
3	諸小屋荒積り之事
4	新鉄穴子口普請荒積り之事
5	山内召抱之者諸賃銭西七ヶ国流荒積り之事
6	鍛冶屋方諸賃銀
7	（その他の諸賃銀）
8	樫ノ木山新鑪普請荒積り米銭之事
9	新鍛冶屋打立入用荒積之事
10	鉄砂壱万駄余仕込荒積之事
11	大炭手当壱ヶ年分荒積り之事
12	小炭手当壱ヶ年分荒積り之事
13	扶持方米壱ヶ年分荒積り之事
14	山内普請料荒積之事
15	（樫ノ木山鑪鍛冶屋新普請荒積りの合計高）
16	鑪一代分算当
17	鍛冶屋算当

押」と称し、銀一貫〇九七匁余をかけて銚四〇駄を生産し、七八二匁余の利益を見込んでいた。大鍛冶では一日に銚一駄半を原料として六回作業し、割鉄三一貫五〇〇匁製造して五二匁余の利益を上げるとする。また、鑪打立には三百両かかると記

すが、大変大雑把な書きぶりである。

天保四年の日付をもつ「播州樅ノ木鉄山鍛冶屋新普請仕法立目録」は樅ノ木山鉄山（現宍粟市一宮町）についての一七項目にわたる本格的な見積もりで、鑪（高殿）・鍛冶屋・その他の諸小屋の寸法・間取から始まり、鉄穴口も新たに大小一口を普請するものとする。山内稼人の待遇を「西七ヶ国流」と称して鑪、鍛冶屋、山方その他に区分してあげている。次に「樅ノ木山」に特化して鑪・鍛冶屋の普請費用、鉄砂・大炭・小炭の原料調達費、扶持米購入費、山内諸小屋の建設費を積み上げ、銭高と銀高を金高に換算する際のレートにやや難がありそうではあるが、合計凡五千両と見積もっている。最後に、鑪一代（「四日四夜」と記し一年七二代とする）で、銀一貫三九一匁余をかけて銚五〇駄を生産し、六〇〇目余りの利を上げ、銚四五貫を仕入れた大鍛冶では割鉄三二貫を製造して五〇匁余の利益を見込む。大鍛冶屋を五軒として年間二三〇〇駄出荷するというかなり厳しい目標であるが、鑪での利と合わせ年間一五九貫八七九匁もの収益を見積もる。

今回翻刻する史料二件が、播磨の近世製鉄史研究に資することを願います。

（一）藪田室長が、令和五年七月、同資料館所蔵鉄山関係史料三冊を現地調査された。土佐と加納は、室長から撮影写真の提供を受けて翻刻した。

【翻刻に際して】

- ・文字の配置はなるべく原史料の体裁を尊重した。
- ・字体は原則として常用漢字を用いた。
- ・計数単位の「ヰ」「リ」は各「貫」「厘」とした。
- ・合字の「㇇（より）」はそのまま使用し、「ソ」は「シテ」と改めた。
- ・助詞等はなるべく平仮名に改めたが、「者（は）」「而（て）」はそのまま使用した
- ・読みやすくするため、適時読点、並列点を付した。
- ・誤字等は（カ）、脱字は（脱カ）で示した。
- ・計算が合わない箇所などには（ママ）を付した。
- ・何ヶ所かに「勘」という文字がみられる。高殿内への出入りを許された食事を用意する老女（字成）のようであるが、今のところ類例を見出せていない。

(表紙)

「天保三年辰七月日

鑪鍛冶屋諸当り帳」

1 鑪当り

一 鉄砂百四拾駄

代銀四百九拾匁

但し老駄二付三拾貫目

銀四匁五分替

鑪尾尻着

但し老^(駄)た三拾貫目

一 野木炭三千四百貫目

代三百四拾匁

拾貫目二付

代銀老匁替

尾尻着

二 口合八百三拾匁

外二

中もの

一 釜土式拾駄

代老貫貳百匁文

但し三拾貫目老駄

道式拾丁として

老丁老文拾貫目也

一 焼木八百貫目

代米老斗六升

尾尻着

拾貫目二付

代米貳合宛

一 灰木七百貫目

代米貳斗老升

一 釜塗り八人

米八升

賃四百文

一 嫗 老人

米四升

賃百五拾文

一 釜焚老人

代米老升

一 しとき

米三合

一 油貳合

代人拾文

一 村下老人

米老斗

賃老貫八百文

一 炭坂老人

米老斗

賃老貫貳百文

右同断

代米三合宛

但し老人二付

米老升

賃五拾文

両職人ニハ入り不申

日ニ八合宛

賃日ニ三十文

但し釜塗方

仕かけの朝迄

金屋子神へ

御備もの

右同断

但し釜塗方

五日之間

捨ふち夜喰共ニ

右同断

右同断

一炭焚式人
 米八升
 賃九百六十文
 一番子六人
 米貳斗四升
 賃三貫六百元
 一夜喰米
 米九升六合
 一山配六人役
 米六升
 賃六百元
 一日雇五人役
 米五升
 賃四百文
 一仕掛塩壺升
 代四拾文
 一繩壺把
 代五文
 一酒四升

但し壺人二付
 日ニ壺升ふち
 八ツ割ニ^ハ
 六拾文宛
 右同断
 八ツ割壺ツニ付
 七拾五文計シ^ニ
 壺人分三合宛
 職人之外
 八人分也
 但し鑪壺代二付
 六人計シ^ニ
 右同断
 釦壺代二付
 右同断
 釜塗貳升

代四百八拾文
 一狸皮壺枚
 代五百文
 一添釜出式人
 代米壺升貳合
 一鑪中塩噌
 代五百文
 一諸入用
 代七貫四百文
 釜出酒貳升
 壺代計シ^ニ
 釦下り賃
 但し壺人^ニ
 六合宛
 五日之間
 御運上銀^{不取カ}
 芝代^{不取カ}
 元古屋入用
 手代給ふち
 銚壺た二付
 百八十五文計シ^ニ
 米合壺石貳斗四升壺合
 升二付六拾文替
 代ニシテ
 七貫四百四拾六文
 賃^ハ
 拾九貫三百拾五文
 貳拾六貫七百六拾壺文
 外ニ

炭鉄砂代二口ノ

正銀ニシテ八百三拾匁

合老貫九拾七匁六分老厘

鑪老代出来銃

平シ 四拾駄積り

代銀老貫八百匁

手取四拾五匁とシテ

差引

残而七百八拾マ式シ匁三分九厘

四日押老代利益

2

鍛冶屋当り

一銃老駄半

代銀六拾七匁五分

一小炭六升

代老貫貳百文

一大工老人

米老升

賃三百六十文

一左下老人

米老升

賃百五拾文

一後吹貳人

米貳升し

賃三百文

一手子四人

米四升

賃六百文

一銃左下

賃四拾五文

但し四拾五貫目

老た二付

四拾五匁

但し老升二付

貳百文かへ

一 狸皮日刻^割

代 三拾文

一 塩三合

代 拾弍文

一 諸入用

代 五匁

諸道具直し
本古屋入用
手代給

九拾九匁四分七厘

一日出来小割

六ツ仕兼^兼ニシテ

目方三拾匁貫五百匁

代銀ニシテ百六拾三匁七厘

内拾匁匁

但し壺たニ付
百四拾匁かへ

拾匁匁駄賃諸入用

五拾弍匁六分 一日之利益

3

一 百両

一 同

一 同

鑪打立
諸普請
鉄穴方
諸道具
人柄雇込

三百両

(表紙)

「天保四年

播州 鐵山鍛冶屋新普請仕法立目錄
縦ノ木山

已正月日 井上吉右衛門用」

1

新鑪打立財木并二
間数荒積り之事

一 鑪之間数三尋 四方

但シ中男之尋手かね尺ニシテ五尺位

本間ニ直シ候而者拾老間余

一 大台持

但シ長七尋、廻り六尺位、小鉄町

之方へ台持之本老尺出し

一 大押立

但シ地之上長老丈七尺之内本

五尺堀埋メ、廻り五六尺位

一 中押立

但シ式本小鉄町之方、式本土町

之方、廻り三四尺位

一 長尾

七拾五本

但シ廻り三尺位

一 火打板

百間

但シ七步懸ケ、長七尺五寸

板家中さす立見計ひ之事

入座台持方三ッ割二タ分之内老尺

戻シ、押立小鉄町広老丈七尺、

同下場広老丈四尺

一 大ひら尾尻

四間

但シ床立六尋、同横四尋半

床之深サ五六尺、水氣有之場所二ハ

水もんヲ抜、本床両小舟等山留

鑪職人山配立会之上、夫々之

任流儀ニ可申

一 大戸口

村下立

但シ広七尺、炭坂立戸口五尺

小鉄町戸口見合、其外小鉄

焼竈、土町、職人座敷、番子

休処、鑪番座、娑座見計之事

右荒積り、是等之儀支配人、両職人、

山配相談之上、場所仕入方ニ応じ

延編ミ可致事

2

新鍛冶屋打立

荒積之事

一横平シ壹丈九尺

但シ見計ひ

一竖壹丈八尺

右同断

一地ノ上壹丈

右同断

但シ堀込三四尺位、梁三ッ割

壹尺三寸、編メ板家中見合之事

火打板六尺五寸六步、板四拾間位

鑪・鍛冶屋共皆円木亦木造り

堀り立ニ付、大工木挽等入不申、皆

召抱之山子・日雇ヲ以、かづら結、

大工座、左下座、後口吹座、庭立

左下火打、銑左下座見計之事

右等之儀者鍛冶屋之大工、左下

両職人相談之上、夫々任居

宜敷様、支配人、山配相談之上

普請可致事

(丁裏 空白カ)

3

諸小屋荒積り之事

一元古屋

壹軒

但シ梁行四間半

桁行拾壹間亦木作堀立テ

火之元要心之為塗家こわ葺

一土蔵

壹軒

但シ梁行弍間半

桁行四間位、惣板敷、大工

□□□□□□

一村下屋

四軒

但シ梁行弍間半

桁行三間半

一大工屋

七軒

但シ梁行弍間半

一炭坂小屋

弍軒

但シ梁行弍間、桁行三間

大家内ニ而遍ク候得ハ、時分見合

相改候上、夫々之物入可致事

一左下屋

七軒

但シ右同断

一長家造り

竈数

三拾軒

但シ後口吹屋拾軒、手子屋廿軒

間取式間三間、尤手子・後吹二八

人数四拾五人、尅軒鍛冶屋二

後口吹三人宛手子六人ツ、二

有之候得共、独身之者有之二付

家持方へ諸込付食致シ、依而

小屋数拾五軒減シ可申

一山配小屋

尅軒

但シ梁行式間半

桁行三間半

一山子小屋

四拾軒

但シ式間三間、支配人山配

見計ひ之上、山子共江渡へ致シ

葺草等遣シ可申、山子五拾人

手当之所拾人位独身之者

有之二付、小屋拾軒減、小屋持方へ

諸込付食致候

一小炭焼小屋

拾五軒

但シ右同断、廿軒之所五軒減シ

尤五軒三軒と長屋造り

一馬小屋

式軒

但シ手馬御上向四疋、追手三人

右之者元古屋江致付食可申

間数見合之事

一手代小屋

三軒

但シ支配人小屋尅軒、下手代

家内持之者も有之二付、右手当テ

独身手代元古屋ニ而昼夜相詰

可申

竈数

一長屋尅軒

五軒

但シ銚折日雇共番人小屋

間取式間三間

一大炭入蔵

三軒

但シ三間二八九間位

尤堀立小屋

一小炭入蔵

三軒

但シ式軒半ニ五六間位

尤堀立小屋也

小屋數ノ

百貳拾四軒

尤通ひ取之儀、百七八拾人

無之而者手都合ニ相成申間敷候

得共、尤諸小屋之儀者減シ候而も

宜敷、鑪番子杯ハ多ク独身者

小屋持方へ付食又ハ鑪ニ而

晝夜相詰居申候、其外諸職人

山子等ニ至迄、子供大勢持候者

有之ニ付、手都合ニ相成可申

4

新鉄穴カ子ナ口コ普請

荒積之事

一鉄穴子口 大小 拾口

但シ鉄砂壺万駄余引当テ

小鉄穴子口ニ而者、五百駄七百駄

位、人夫も五人七人位ニ而取可申、

中鉄穴子口ニ而者、日ニ拾人拾五人位

ニ而取可申、小鉄駄数千駄方

千四五百駄位、大鉄穴子口ニ而者

5

山内召抱之者諸賃錢

西七ヶ国流荒積リ之事

一鑪職人

村下壺人分

但シ壺ヶ月分為扶持方

米四斗五升、賃錢之儀者

鑪四日四夜一代ト云、賃錢

壺貫八百文方貳貫二百文

位迄、塩噌壺ヶ月分

貳升宛也

(丁裏 空白カ)

拾八九人廿人余も相掛り可申、

小鉄駄數之貳千駄三千駄位も

取可申、大小平シ一口二千駄ト見積り

拾口ニ壺万駄、人數も一万人方

壺方五千人役、人夫壺人ニ付

鉄砂壺駄宛取候得ハ、駄取と

申而算当引合ニ相成可申

一同

炭坂壺人分

但シ壺ヶ月分為捨扶持

米壺斗五升方式斗位迄

賃錢八百文方壺貫式百文

位、塩噌月二壺升宛也

一同

炭燒壺人分

但シ四日四夜一代致し

賃錢五百六拾文位八ッ割

一ッ分米五合、賃錢七拾文

方八拾文位、為夜食米

一夕三合宛、塩噌遣シ不申

一同

番子壺人分

但シ鑪一代八ッ割ニシテ七拾文方

尤上番子ハ八拾文又百文位迄

扶持米一昼夜米壺升

夜食米三合宛、塩噌之儀ハ

鑪江食焚 爰 ヲ付、汁二而も

煮遣シ可申、尤仕懸塩

と申而、一人分三合宛遣シ

可申、此塩遣スニ付、鑪之上釜
土無賃ニ而入可申

鑪之食焚

一同

爰 壺人分

但シ鑪一代ニ付米式升五合

賃錢百七拾文位

6

鍛冶屋方諸賃銀

一鍛冶職人 大工壺人分

但シ鍛冶屋本仕業六吹と

相定メ、一吹分銃七貫五百目

入小割八本ニ割、六吹地銃

四拾五貫目、鉄ニして

七步当り三拾壺貫五百目

数四拾八本壺日分也

為捨扶持と米四斗五升

塩噌式升宛、賃錢

右六吹分三百文方三百

三拾文位

一同 左下老人分

但シ日ニ米老升、賃銀

百文方百五拾文位、塩増

老升宛、職人ニ依り捨扶持

見計ひ之事

一同 後口吹老人分

但シ日ニ米老升、賃銀

百文方百五拾文位、塩増

老升宛遣シ可申事

一同 手子老人分

但シ日ニ米老升、賃銀

右同断、塩増同断

都而不限何職過分之

致賃銀候者、諸賃銀

引下ケ可申、賃銀無之者

仕取同様之賃増可致事

7

一山方 山配役老人分

但シ為捨扶持と米四斗五升

賃銀貳貫五百文より

三貫文位、右老ケ月分

塩増貳升宛

一元古屋内 支配人老人分

但シ老ケ月米四斗五升

小鉄山ニ而者正銀六七百目

位、大山ニ而者老貫目方

老貫目貳百目位、塩増

職人同様遣シ可申

帳本締

一同 手代老人分

但シ元古屋之内ニ而勤候者

給銀五百目方八百目位迄

尤家内持ニ候得ハ捨扶持

塩増相極メ小屋持ニ可致

下

一同 手代老人分

但シ給銀三百目方五百目

位、家内持右同様可致事

一同 馬土老入分

但シ給銀壹ヶ年分

三百目方三百六拾目位

尤小屋持ニ候得ハ扶持米

塩噌見計ひ之事

一同 日雇老入分

但シ米壹升、賃錢

五拾文方八拾文位迄

一同 食焚老入分

但シ日ニ六七拾文方百文位迄

右之外、鑪小番子賃錢、或者

銑折廣銑起ゆり、鑪之拾銑直段

山内子供仕業之賃錢、都而不限

何等ニ其場所人柄ニより上下

可有之、支配人ヲ始メ、手代中并ニ

山配相談之上、鼻肩之沙汰

無之様取計ひ可申事

(丁裏 空白カ)

8

縦ノ木山新鑪普請

荒積り米錢之事

一 米 五 石

一 錢七拾五貫文

鑪壹ヶ所

但シ人夫五百人役、老入ニ付

米壹升扶持、錢百五拾文宛

一 米 三 石

一 錢四拾五貫文

鑪床上ヶ賃

但シ床燒人夫、其三三百人役位

老入前老升ニ錢百五拾文ツ、

一 錢四拾貫文

火打板百間

但シ七步掛ヶ、板長七尺五寸

一 錢貳拾四貫文

鑪葺茅

但シ三尺五寸繩ニシテ六百ヶ位

大方鑪着ニシテ四拾文位、老速家カ分也

一 錢六貫文

繩百廿速位

但シ廿尋積り老速ニ付五拾文位

一 錢三貫貳百文

竹四拾速

但シ老束ニ付三拾本詰

束八拾文位

一 錢四貫文 筵八拾枚

但シ老枚ニ付五拾文替ニして

此筵、村下立・炭坂立両方江

酒^カ筵ニシテ、屋根地へ葺込不申而者

火之用心不宜ニ付

一 錢三拾五貫文 鑪木 七万貫目

但シ床焼木五十日ケ間入用木

拾貫目ニ付五文位

一 錢四貫文 灰木 五千貫目

但シ拾貫目ニ付八文位

一 正銀老貫目 天秤式挺

但シ石州河本天秤直段

地大工ニ而も同様之事

尤賃・扶持・鉄道具ニ至迄

右老貫目ニ而相済可申事

一 錢廿貳貫四百文 狸皮 三拾貳枚

但シ老枚ニ付七百文替、尤大坂

皮ニ而者四百五拾文方五百文位之

者、地皮徳用ニ候

一 錢貳拾五貫文 酒式石位

但シ鑪普請中近村方手伝人夫

有之ニ付入用酒、老升ニ付百廿文位

一 錢五拾貫文 諸入用当テ

但シ鉄道具、釘、かすがい、鑪之

押道具類之數々、小割鉄老駄位

小鍛冶江細工為致候代銀共、并ニ

大前之普請中、書記之筆數之外

鑪兩職人御座式枚并ニ番子共

めんこ鍋茶釜ニ至迄、荒積り

米ノ八石

代銀五百六拾目 但シ石ニ付、七拾匁がへ

正銀錢共ニ

合四百八拾九貫六百文

右之通、場所仕入方ニより増減

可有之、先荒積り、如此ニ御座候

(丁裏 空白カ)

新鍛冶屋打立入用

荒積之事

一 米 貳 石
 錢 三拾貫文
 人夫貳百人役

但シ尅人ニ付
 米 尅 升 ツ、
 錢 百 五 拾 文 ツ、

一 錢 拾 貳 貫 文
 火 打 板 四 拾 間
 但シ六尺五寸板、尅間ニ付

代 錢 三 百 文 位

一 正 銀 三 百 目
 新 吹 子 貳 挺

但シ大伝摩ニ有之候得共、大坂

吹子不宜、西伯州雲州ニ而相調

吹子為筋ニ御座候、尤尅挺ニ付

床放シ、正銀百五拾匁宛也

一 米 五 斗
 錢 五 拾 貫 文
 諸 道 具 入 用

但シ鉄床二ツ、其外鉄道具

鍛冶屋人別八人之者、三日位ハ

打懸り候荒積り、八人賃・扶持

鉄代小炭代共ニ

一 錢 三 貫 六 百 文
 酒 三 斗 位

但シ右同断、普請中入用

尅 升 二 付 百 貳 拾 文 替

一 米 貳 斗
 錢 三 貫 文
 諸 入 用 当

但シ鍛冶屋尅軒分、普請中
 入 用 当 テ

米 貳 石 七 斗
 但シ石ニ付、七拾匁ガヘ
 代 銀 拾 八 貫 九 百 文

合 百 四 拾 七 貫 五 百 文

但シ鍛冶屋尅軒分荒積り

五 軒 鍛 冶 屋 打 立 候 得 ハ

都 合

メ 七 百 三 拾 七 貫 五 百 文

右 五 軒 鍛 冶 屋 新 普 請

諸 道 具 新 二 調 へ 候 得 ハ、過 分 之

入 用 可 有 之、尤 荒 積 り 之

事 二 付、増 減 可 有 之 候

鉄砂壺万駄余仕込

荒積之事

一銀三拾貫目

小鉄壺万駄当り

但シ壺駄二付三拾貳貫目入

初秋方普請ニ取懸り、翌二三月

彼岸過頃迄取候得ハ、右拾口ニ而

壺万駄位取不申而ハ、五軒

鍛冶屋へ続候地鉄無之、人夫

之者或ハ壺人ニ米壺升、賃

錢百文方百五拾文位遣シ可申

賃錢ニ而者過不足有之候へ共

先鉄砂壺万駄引当テ、但シ

壺駄ニ付銀三匁と見積可申候

一銀拾五貫目

鉄穴子口、拾口

但シ新普請ニ付、諸道具代当テ

新普請ニ候得ば、場普請等新ニ

拵へ、新井手等場所ニより五十丁

七拾丁新井手ヲ拵へ、其外籠り

小屋、山番小屋、水不自由之

場所ニハ堤壺ヶ所ニヶ所相拵へ

其外洗ひ場板類、人夫之數

打鍬・唐鍬・洗ひ鍬・飛口

熊手・鍋茶釜ニ至迄、鉄道具

相拵へ荒積り、新普請ニ付

普請手当テ壺口ニ銀壺貫目

諸道具当テ壺口ニ五百目当テ

尤翌年方新道具拵候儀も

不及、或ハ直シ或ハ先懸ケニ而

相仕廻可申、場普請井手

杯之儀も、初年之三ヶ一も入不申

右違見荒積り、尤場所ニより

増減可有之候

一銀貳拾貫目

鉄砂駄賃当テ
壺 万 駄

但シ初秋方翌三月迄、鑪着ニ

尤鉄砂当テ・駄賃当テ之両品ハ

鑪江壺ヶ年分積置可申

後日之不益と申儀ニ而者無之

普請料道具代杯と者

相違之者ニ候、正月元日方

大晦日迄無レ休ミ吹通シ致候
 手当テ、若シ不手合ニ候得者
 五軒鍛冶屋之支ニ相成可申
 勿論百姓中農業嚴敷
 相成候得ハ、鑪駄賃等ニ参り不申
 是悲鑪^悲ヘ取込置申致ものニ
 可有之候

大炭手当壹ヶ年分

荒積り之事

一銀貳拾三貫四拾目

但シ大炭貳拾八万八千貫目
 拾貫目ニ付銀八分、鑪一代押
 四千貫目と極メ、年中吹通シ候ヘハ
 七拾貳代壹ヶ年分手当ニ候
 尤四月頃方七月頃迄鑪之
 床焼可申者ニ候得共、鑪一ヶ所ニ而
 二三ヶ月も休ミ候而者、五軒鍛冶屋
 之地鉄行届不申、依而春夏
 秋冬吹通し可申、乍去山子

五拾人召抱候得ば、壹人分壹ヶ月ニ
 五百出之釜ニはい焼候而も千
 貫目、壹人之山子壹ヶ年分
 壹万貳千貫目、五拾人ニ而者
 六拾万貫目焼込候道理
 乍去山子ニ而も他分出情候者も
 有之、又ハ不出情之者も有之
 算用通りニ行不申、右五拾人之
 山子他分之炭出来候砌り
 炭蔵ヘ入置可申、小炭等
 不行届、鑪之番子等不自由
 之節者、山子五拾人ヲ以手合
 可申、炭代積り之儀ハ仕候ヘ共
 五拾人ヲ以焼候ヘハ、鑪打立相濟
 次第為取懸候而も差支候儀
 無之、炭代壹ヶ年分之儀者
 手合ニ及不申、尤召抱候砌
 夫々銀借致シ小屋持ニ召抱、大
 炭竈為打候砌、譬者五百出之
 竈・千貫目出之竈、夫々
 支配人山配兩人方見改、或ハ

五拾人役懸り候竈五人役
位竈歩トして親方ヲ遣し
可申、尤場所ニ応シ遣シ可申
事、山子共竈山為打候砌
其谷々或ハ竈手式十枚場
三拾枚場見改、山子共江
公事取為致、上山中山
下山下々山、御百姓御田地
免土代御極メ被遣候様ニ、上山
ニ而者大炭式千貫目一代
押と相定メ、或ハ米ニ而老石
六斗位、夫方中山下山少々宛
直段引揚ケ、極下山之儀者
二石位ニ而も為伐竈床放レ
直段、鑪戸口方夫々之竈口
迄、支配人山配間数見改
炭拾貫目ヲ老丁ニ正銀老文^宛
宛遣シ可申、銀切代ニ而も
夫ニ応シ可申事

12

小炭手当老ケ年分

荒積り之事

一銀拾七貫式百目

小炭代

但シ六吹仕業老人役小炭
かね三尺同返シ駕ヲ以一ハはひヲ
老升ト云、尤西七ヶ国式尺五寸
枘也、播磨一國ニ限り三尺枘
老升ニ付銀式匁、六吹老人
役ニ四升位、五軒鍛冶屋本
仕業之分ニ而者式千駄之
鉄難出来、西七ヶ国之流儀
ヲ以増仕業為致候得者、鍛冶
職之者、手子役人ニ至迄
相定之外賃銀増ニ相成
一流身分立行可申、増仕業
之分共ニ小炭引当テ、小割鉄
式千式三百駄出来之鉄
当テ之小炭代荒積り、小炭
焼式拾人通ひ取召抱候
尤引足り不申候得ば、山子之
子共或ハ村下鍛冶ニ至迄

仕取之当分渡シヲ以手合ニ
相成可申、右手当ニ銀
書^②出シ候得共、大炭同様先
銀入不申荒積丈之事

扶持方米壺ヶ年分
荒積之事

一正銀六拾四貫五百拾貳匁

但シ石ニ付七拾匁替之米

九百貳拾壺石六斗、召抱人別

百六拾人位、四日六升扶持

尤独身之者四日五升又ハ

村下大工其外山方之者ニ而も

家内四人五人共暮シ居申者

七升扶持、高下平シ六升と

積り、或ハ月ニ七扶持亦ハ

八扶持壺ヶ月分四斗八升

拾貳ヶ月分五石七斗六升

百六拾人位召抱之通ひ取

人別米数合、右之通荒

積り仕候、尤手代、村下、炭坂

山配、鍛冶大工、左下等之

者へ者壺ヶ月ニ或ハ三斗

或ハ四斗五升其職々ニ

応シ遣シ可申、一ヶ月分米

通ひ辻米何斗何升之内

右捨扶持致立用残米

譬者七拾匁之直段之時

拾匁上り八拾匁と致し

賃錢可致立用、且又

右之人数之者塩噌夫々之

職分ニ応シ相渡シ可申

村下、大工等之者江者、一ヶ月

塩貳升味噌五百目壺

升ニシテ式升宛相渡可申

其外手代、炭坂、左下

後口吹、手子等之者江者

塩噌壺升宛遣シ可申

此外酒、塩、噌、醬油、煙草

灯シ油、酢、付木、焼心ニ至迄

脇方商人入候而者不宜
座小屋老軒相堅
元古屋方仕入遣シ可申
利益不少、御運上・柴
代・手代給位之事ハ可有之
右相考へ申候事

14 山内普請料荒積

之事

一銀拾五貫目

但シ山内小屋百廿四軒

新普請料其外諸道具

馬代、同鞍代、道橋、鉄池

道具池、小鉄洗ひ場、炭懸ケ

場一切普請料荒積り

増減可然候

右新鑪壺ヶ所、新鍛冶屋
五軒材木諸入用物、場取
間数夫々荒積り致候、尤

左之奥^ハヲ以御引合、且又
鑪老吹分并ニ鍛冶屋老
日分算用目録御引合
可被為遣、乍憚具之儀者
演舌^ニならでハ難相分奉存候

以上

15

奥^ハ

一錢四百八拾九貫六百文

但シ新鑪普請料諸道具代共ニ

一錢七百三拾七貫五百文

但シ新鍛冶屋五軒打立普請料

諸道具代共ニ

一銀三拾貫目

但シ鉄砂壺万駄当テ

一銀拾五貫目

但シ鉄穴子口拾ヶ所新普請

入用料諸道具代当テ共ニ

一銀貳拾貫目

但シ鉄砂老万駄駄賃当テ

一銀廿三貫四拾目

但シ大炭手^(通視)老ケ年分当テ

一銀拾七貫弍百目

但シ小炭老ケ年分当テ

一銀六拾四貫五百拾弍匁

但シ米九百廿老石六斗代当テ

一銀拾五貫目

但シ山内小屋百廿四軒普請

料其外大數召抱之諸道具

代当テ

錢ノ千弍百廿七貫百文

銀ノ百八拾四貫七百五拾弍匁

合凡五千兩

内

銀弍拾三貫四拾匁 大炭当テ

銀拾七貫弍百目 小炭当テ

銀六拾四貫五百拾弍匁 米代当テ

内ノ百四貫七百五拾弍匁

但シ五千兩及諸入用書出シ

尤内立三筆百貫目余

大炭・小炭・米代老ケ年分

仕込仕候得共、此半分者余

手当テ仕候ニ不及、炭木連も

追々仕込手合可申、米代

同様之事、此百貫匁余之

内五拾貫目計ヲ以、山内召抱

之者先銀借不申而者宜敷

人柄召抱ニ不相成、尤拾四五ヶ

年已前迄者、五軒鍛冶屋

之人弍千兩余も借銀不仕

而者召抱不被申候得共

当時人柄下直ニ相成居

申候、依而五拾貫目位召

抱手当テ可申事

16

鑪一代分算当

但シ四日四夜ヲ一代ト云也

一銀四百八拾匁

鉄砂百六拾駄
銀三匁替

一銀三百式拾匁

同 駄賃
平シ式匁宛

一錢百七拾文
一米式升五合

嬬 壱人賃

一銀三百式拾匁

大炭四千貫目
但シ拾貫目ニ付
銀八分替

一米式斗

村 下 炭坂
捨扶持夜食共々

三口ノ壱貫百式拾目

外二

中物

一米四斗壱升六合

一米壱升

釜焚賃

一錢壱貫式百文

釜土式拾駄道
法式十丁（こ）と積り
拾貫目ニ付一丁
壱文ツ、

一米三合

一米壱升六合

しとき米（巻）
金屋子神へ備へ
添釜出式人

一錢五百文

焼 木 千 貫 目
拾貫目ニ付五文替

一錢式百文
一米式升

小鉄洗ひ
日雇式人

一錢四百八拾文

灰 木 六 百 貫 目
拾貫目ニ付八文替

一錢八百文
一米八升

山配壱人

一錢式貫文

村下壱人賃

一錢四百文
一米五升

日雇五人

一錢壱貫式百文

炭坂壱人賃

一錢四百八拾文

酒四升

一錢三貫八百四拾文

炭焚式人賃

釜塗酒
懸り切酒

一錢四百文

番子六人賃

一百四拾五文

塩式升
油壱合
繩壱把

米八升

米ノ九斗

七拾匁替

合四拾三貫貳百目ヲ

代六拾三匁

金利増ニ相見ヘ申候

錢ノ拾三貫四百拾五文

二口ノ百九拾七匁壹分五厘

合壹貫三百拾七匁壹分五厘

外ニ

17 鍛冶屋算当
壹軒分一日仕業

七貫四百文

一 銀六拾匁

銑四拾五貫目
但シ三拾貳貫目入
壹駄半

本古屋入用
手代給
御運上銀山代
銑壹駄二付
銀壹匁三分六厘

銀四拾目替

ノ壹貫三百九拾壹匁壹分五厘

内

一 錢八百文

小炭四升
三尺柘壹升二付
貳百文替

一出銑平シ五拾駄

但壹代分四晝夜之分

一 錢三百三拾文

大工壹人
六吹仕業賃

代貳貫目

銑壹駄二付
銀四拾匁替

一 錢百三拾文

左下壹人
賃 錢

差引

残而六百目五厘

一 錢貳百六拾文

後口吹貳人
賃 扶 持

但シ鑪四日四夜壹代押利埒

一 米 貳 升

手子四人
賃 扶 持

壹ヶ年分七拾貳代吹

一 錢五百廿文

賃 扶 持

壹代二付銀六百匁宛

一 錢四拾五文

銑左下賃

一錢卅文

重役廻り賃

朝吹改賃

後口吹銑左下賃

五匁

元古屋入用手代給
御運上銀諸入用

残而五拾匁七分三厘

一米六合

但シ鍛冶屋一日分利増

米ノ九升六合

代六匁七分弍厘

石七拾匁替

錢ノ八貫百拾五文

老ヶ年出鉄五軒鍛冶屋

凡弍千三百駄位、利増都合

合八貫七百八拾七文

百拾六貫六百七拾九匁

内

外二

小割三拾弍貫目 銚二七步留り

代百五拾三匁六分

但シ大坂直段百五拾三匁六分

目方三拾弍貫目入、伯州

鉄廿七貫目入百三拾匁

位之積り

四拾三貫弍百目鑪出利増
合百五拾九貫八百七拾九匁
金利増相見へ申候

差引

残而六拾五匁七分三厘也

又内

鑪方大坂迄駄賃
運賃問屋庭敷

拾匁
大坂仕切賃入用共二